

Slovenia Monthly December 2021

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2022年1月20日



～12月の主なポイント～

内 政： ヴィズヤク環境相及びホイス内相に対する不信任動議が否決
外 政： ヤンシャ首相の東方パートナーシップ首脳会合への出席
経 済： OECD、スロベニアの成長見通しを大幅に上方修正
スポーツ： ポガチャル選手、ヨーロッパで6番目に優れたアスリートにランクイン

政治

【内政】

●政府、外交戦略文書を改訂【2日】

スロベニア政府は、新たな課題、特にハイブリッドの脅威やその他の危機を考慮に入れた、新国家外交戦略を文書化した。タイトルは「Slovenia: Safe, Successful and Respect in the World – Foreign Policy of the Republic of Slovenia」で、2015年7月に承認されたスロベニアの外交戦略を改訂・更新したもの。同文書は議会の外交委員会に付託された。

●外交政策委員会、派遣に関する新法案を承認【3日】

外交政策委員会は、文民ミッションおよび国際機関への派遣に関する新法案を承認した。ドヴジャン外務副大臣は、この法案はスロベニアの専門家をタイムリーに指名して派遣できるようにすることを目的としていると述べ、2006年に制定された現行法では部分的に実行不可能であることが判明したため、今回の改正が必要になったとした。今回の改正により、これまで不可能だった司法関係者の派遣が可能になる。

●GASとSMCが合併【4日】

現代中心党(SMC)と経済活動党(GAS)が合併し、スロベニアの社会的・経済的發展を目指す新党「Concretely」が発足した。合併会議では、同党は、ビジネス界の政治的パートナーとなり、経済的・社会的な發展を重要な優先事項とすると発表された。新党の党首であるポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、会議後に「Concretelyは、過去に焦点を当てた古い政治からの脱却を提案する」と述べた。

●スロベニアの汚職状況【6日】

国際汚職防止デーを前に、汚職防止委員会のシュミ委員長は、スロベニアは汚職によって年間35億ユーロの損失を出しており、これはGDPの13.5%に相当するとし、これらの資金が貧困層の救済に充てられれば、スロベニアでは誰もが貧困に苦しむことはないだろうと述べ、国家のトップとその関係者、そしてすべての公共部門の職員の誠実性の重要性を強調した。

●新しい投資・国際化促進計画を採択【10日】

政府は、持続可能性、イノベーション、デジタル化に焦点を当てた、投資の促進と経済の国際化のための新しいプログラムを採択した。同プログラムでは、

スロベニアの投資を海外で促進するための方策が定められている。経済開発・技術省が作成した同プログラムは、グリーン、クリエイティブ、スマートのスローガンの下、スロベニア経済の国際化の野心的なビジョンを打ち出している。

●GEN-Iの前CEOが政界入り【10日】

GEN-I社(売買・発電・供給等を行う電気会社)のCEOとしての再任されなかったゴロブ氏は、政界に進出することを決定した。ゴロブ氏は新聞社「Delo」に対し、超党派の活動を通じて政治に参加することを最終的に決定し、4月の総選挙への出馬を排除していないと述べた。

●ヴィズヤク環境大臣に対する不信任動議の否決【18日】

18日、議会において、ヴィズヤク環境大臣(SDS所属)に対する不信任動議についての投票が行われ、43名が賛成、29名が反対票を投じ、(不信任動議には絶対多数の46票が必要となることから)動議は否決された。動議を提出した野党中道左派4党及び無所属議員が賛成し、ヴィズヤク大臣を支持しないと公言していた連立与党のNSi(新スロベニア)及びDeSUS(年金者党)の議員は棄権、SDS及びSMC(現代中央党)が反対した。

動議提出の主な理由は、ヴィズヤク大臣が経済大臣を務めていた際に民間企業社長に税金支払い回避を促している録音が発見されたスキャンダルであり、同大臣は、右録音は私的な会話の違法な録音のつなぎ合わせによるコラージュであると釈明していた。

●ホイス内務大臣に対する不信任動議の否決【21日】

21日、ホイス内務大臣(SDS所属)に対する不信任動議についての投票が行われ、44名が賛成、37名が反対し、動議は否決された。動議を提出した野党中道左派4党、無所属議員に加え、DeSUSのフルシヤク議員が賛成票を投じた。SDS、NSi及びSMCの議員が反対した。DeSUSのポルナル議員、通常与党側に票を入れるSNS(国民党)の議員及び少数民族代表の議員が棄権した。

ホイス大臣に対する不信任動議は2020年9月に続き2回目、前回も動議は否決されている(前回は賛成38票、反対44票)。

動議提出の理由は、リュブリャナにおける政府抗議集会における警察の行き過ぎた対応及び現政権の警察への政治的干渉であり、ホイス大臣はいずれの疑いも否定し、実際は自分(ホイス大臣)は警察官によりよい職務環境を提供したと述べた。

●リュブリャナ市長の家族への捜査【21日】

警察は、5名の被疑者にマネーロンダリングと職権乱用の疑いがかかっており、そのため国家捜査局(NBI)がリュブリャナ地域で11件の家宅捜索を行ったと発表した。ヤンコヴィッチ・リュブリャナ市長は、捜索は自分の妻と息子2名を含む家族のメンバーを対象としており、彼自身や市当局ではないと述べた。5名はマネーロンダリングの疑いがあり、そのうち2名はビジネス活動における職権乱用の疑いもあり、違法な利益は100万ユーロと推定される。

●スロベニア・デジタルセンターの成功【22日】

スロベニアEU議長国のプロジェクトの1つであったスロベニア・デジタルセンターは、124の企業及び組織のプロモーションの舞台となり、6万人の対面及びオンラインの訪問者を得、全ての関係者が同センターは成功であったとしている。同センターは経済省、SPIRIT、スロベニアデジタルイノベーションセンター及びBTC社のパートナーシップにより、7月にBTCショッピングセンター内でオープンした。

●経済大臣の電気輸出規制についての発言【21日】

ポチヴァウシェク経済科学・技術大臣は、エネルギー価格の高騰に対処する手段として、輸出の禁止と価格の管理によって、政府が電力市場に介入する可能性があるとして述べた。中小企業商工会議所に対して、「スロベニアは必要な電力の85%を生産している。しかし、実際には生産量の半分を輸出している。そこで国が介入して、電力の輸出を禁止し、価格を設定することができる。必要であれば、そのような手段を取る。」と述べた。

●VATに関する法の改正【27日】

国民議会はVATに関する法の改正を可決した。同改正は7月に可決できなかったもので、ビジネス目的のゼロエミッションカーのVAT免除や、農家を対象としたよりシンプルなVATシステム、商店における領収書印刷義務の廃止等を含む。また、EU指令に従い、これまで輸入時に22ユーロ以下はVAT課税免除となっていたが、同免除が廃止となる。

【外政等】

●EU・西バルカン内務大臣会合の開催【2日】

2日、ブルド・プリ・クラニユにおいて、EUと西バルカン各国の内務省の代表者の会合が開催された。ホイス内務大臣は、組織犯罪、テロとの戦い及び移民の管理において、情報交換や現場での協力を改善する必要性について合意したと述べ、また、本会合での議論により、EUと西バルカン諸国の協力は「双方向」であることが確認されたとした。

●コヴェシ欧州首席検察官のスロベニア訪問【6日】

スロベニア訪問中のコヴェシ欧州首席検察官は、EUの首席検察官の同意なしに欧州委任検察官を解任することはできないと述べ、スロベニアの2人の欧州委任検察官は、12月1日から5年間の任期で任命されたと強調した。これは、スロベニア政府が委任検察官の罷免を可能にし、任命に対する発言力を高めるための法改正を検討していることに言及したもの。また、スロベニアの司法に対する圧力についても警告し、独立した司法機関の重要性を強調した。

●EU財務大臣、付加価値税(VAT)の軽減税率に関する規則に合意【7日】

EU各国の財務大臣は、ブリュッセルで会合を開き、付加価値税の軽減税率に関するEU規則をアップグレードすることで政治的合意に達し、軽減税率や免除が認められる商品やサービスのリストを更新した。この新規則により、加盟国はどの製品を減免、超減免(super-reduced)、ゼロ税率の対象とするかをより柔軟に選択できるようになる。一方、1997年に制定された「企業課税に関する行動規範」の見直しについては合意に至らず、シルツェル財務大臣は新たな提案を作成する必要があると述べた。

●ホイス内相、クロアチアがシェンゲン圏参入の条件を満たしていると発表【10日】

EU内務大臣会合を終えたホイス内相は、クロアチアがシェンゲン圏に入るための条件を満たしていることが合意されたと述べ、これはノーパスポートゾーンの拡大に関する最終決定に向けた重要なステップであると述べた。ホイス内相は、他のステップも比較的すぐに続くだろうと考えている。

●スロベニア、国連安全保障理事会の非常任理事国入りを目指す【10日】

9日、スロベニアは、ニューヨークで2024年－2025年国連安保理非常任理事国への立候補を正式に発表した。外務省の主導で行われた同決定は、スロベニア国民議会外交政策委員会で審議された後、スロベニア政府によって採択された。

国連憲章に基づき、国際的な平和と安全の維持に主要な責任を負う機関である国連安保理非常任理事国への立候補は、EU議長国を成功させた後のスロベニアの積極的な外交政策をフォローするもの。スロベニアは、紛争の平和的解決のためのメカニズムや、国際裁判所や裁判所の決定の尊重など、国際的な平和と安全の最善の保証としての国際法の尊重に根ざした建設的な解決策を要請するため立候補を行う。

2024年－2025年の任期では、スロベニアが国連の枠組みの中で所属する東欧諸国に非常任理事国として1議席が与えられ、ベラルーシも立候補を表明している。2024年－2025年の国連安保理の選挙は、2023年6月の国連総会の会期中に行われる予定。

●パホル大統領の民主主義サミットへの参加【10日】

パホル大統領は、バイデン米大統領が主催する民主主義のためのサミットにオンラインで参加し、民主主義に対する信頼の危機と政治的・法的文化の低迷に注意を喚起した。また、異なる意見を調整することを含む、尊重された対話を求めた。

●ボスニア情勢についてのロガル外相発言【13日】

ブリュッセルを訪問したロガル外相は、ボスニアのスルプスカ共和国の議会が先週、スルプスカ共和国のボスニアからの撤退プロセスを開始したことについて、スルプスカ共和国の最新の動きは大きな懸念事項であり、危険な扉を開くものであると述べた。同大臣は、ボスニア・ヘルツェゴビナでのエスカレーションを防ぐために、EU全体と米国との協調行動が必要であると述べた。一方、ドディック大統領評議会セルビア系メンバーにEUが制裁を課す可能性については、同トピックは今回の外相会合で議論されていないとし、コメントしなかった。

●ヤンシャ首相の東方パートナーシップ首脳会合への出席【15日】

ヤンシャ首相はブリュッセルで開催された東方パートナーシップ首脳会合に出席し、スロベニアはEU議長国として、東側のパートナーへのEU加盟や拡大の期限設定に尽力してきた旨述べ、これからの10年間で双方(EUと東側のパートナー)が拡大のための具体的なステップを踏むべきだとした。ヤンシャ首相はゼレンスキー・ウクライナ大統領、パシニャン・アルメニア首相及びベラルーシ野党側リーダーのチカノフスカ氏とそれぞれ会談した。

●欧州議会、スロベニアの基本的人権及び法の支配についての決議を採択【16日】

16日、欧州議会はスロベニアの基本的人権及び法の支配についての決議を採択した。同決議は、「スロ

ベニアにおける公開討論のレベル、敵意、不信、深い偏向の風潮が、公的機関および公的機関間の信頼を損なっていることに深い懸念を抱いている」とし、欧州委任検察官の指名遅延等の経緯や補助金支払い遅延によるSTAへの圧力等に言及しており、スロベニア国内の影響力のある公人や政治家に対し、敬意のある文化的な公開討論を行うよう呼びかけた。決議は、賛成356票、反対284票、棄権40票で可決された。反対票のうち33人は、ヤンシャ首相のSDSが所属する欧州人民党の議員であった。

●スロベニアEU議長国の評価【15日、17日、23日】

15日、パホル大統領は、ラジオ・スロベニアとのインタビューにおいて、スロベニアのEU理事会議長国就任は成功だったと述べつつ、西バルカン関連では、ブルガリアが北マケドニアの加盟交渉が開始できなかったことを遺憾に思うとした。また、欧州委任検察官の指名の遅延や、欧州議会の決議を招いたSTAの資金問題など、スロベニアの評判を落としてしまったことを残念に思うと述べた。

17日、ヤンシャ首相はブリュッセルでのEU首脳会合の後、スロベニアのEU議長国の成果を発表した。同首相は、スロベニアは新型コロナウイルス発生後4か国目のEU議長国であり、可能な限りの対面式の会議開催に尽力したことがいくつかの困難な文書の完結に貢献したと述べた。

23日、ロガル外相は、スロベニアのEU議長国を評価し、世界におけるスロベニア外交の評判、地位、世界へのアクセスを向上させたと述べた。また、議長国としての成功は、スロベニアが国連安全保障理事会の非常任理事国として立候補する際にも有利に働くと記者団に述べた。

同日、フランスがスロベニアからEU議長国を引き継ぐにあたり、フェラーリ駐スロベニア・フランス大使は、STAに対し、スロベニアがEUの舵取りにおいて良い仕事をしたと述べ、最低賃金に関する合意やデジタル市場およびサービスに関する法律についての調整等を例に挙げた。また、スロベニアのおかげで、フランスのEU議長国は良い基盤の上でスタートできるだろうとし、スロベニアとフランスの関係は非常に良好であると述べた。

●ロガル外相の仏訪問【16日】

16日、フランス訪問中のロガル外相はル・ドリアン仏外相と会談を行い、スロベニアEU議長国の達成結果と主なEUDシエの業務の継続について伝達を行った。フランスは1月1日から議長国に就任する。両大臣は、今後の更なる二国間関係深化についても協議した。

●ロガル外相のノルウェー訪問【17日】

ノルウェー訪問中のロガル外相は、ヴィットフェルト・ノルウェー外相と会談し、更なる協力の強化について協議した。スロベニア外相のノルウェー訪問は18年ぶりで、会談においてはスロベニアの安保理非常任理事国への立候補についても協議された。ロガル外相はヴィットフェルト外相に対して、良好な二国間関係、特にマルチ及び安全保障分野における協力の感謝した。

●駐スロベニア米大使の承認【19日】

米国上院は、ジェイミー・リンダー・ハーブートリアン氏を新しい駐スロベニア大使として承認した。ハーブートリアン氏は、「バイデン大統領が私に託した信頼に深く感謝し、光栄に思っている。また、承認プロセスで支援してくれたグレアム上院議員に感謝したい。スロベニアで米国を代表することを楽しみにしている」と述べた。

●ロガル外相の訪米【20日】

20日、ロガル外相はワシントンにおいてブリンケン国務長官と会談を行った。過去1年半の間で米国との間で3回目の外相レベルでの会談となる。会談の目的は、二国間の戦略的対話の継続であった。

ロガル外相は、二国間関係の質の高さに満足しているとし、それが事務レベル及び政治レベルの両面で繋がりの強さに反映されていると述べた。2020年12月に設立された両国間の戦略的対話メカニズムは、定期的な政治・防衛協議及び他の二国間会議によって進展している。戦略的対話は2022年にもリュブリャナ及びワシントンにおいて継続される予定である。

また、両大臣は、レジリエンスの強化、デジタルトランスフォーメーション及びグリーンランジションのためにスロベニア及び米国が行っている努力のより広い文脈において、サイバーセキュリティ及びエネルギー安全保障についても言及した。

国際的課題についても意見を交換し、特に西バルカンについては、同地域の安定が欧州・大西洋地域の安定のために肝要であることに完全に同意し、そのためにはEU、米国及び西バルカン間の緊密な協力が重要な役割を果たすとした。

経済

【経済一般、指標・統計】

●OECD、スロベニアの成長見通しを大幅に上方修正【1日】

経済協力開発機構(OECD)は、スロベニアの経済成長見通しを大幅に上方修正した。今年の経済成長率を5月時点の3.5%から5.9%と予測しているのに対し、2022年の見通しは0.8%ポイント修正して5.4%としている。2023年の成長率は3.2%になると予測している。

●フィッチ、スロベニアの格付けを上方修正、見通しは安定【4日】

4日、格付け会社フィッチは、スロベニアの信用格付けをAに据え置き、安定的な見通しと自社のウェブサイトで発表した。これは、投資の増加と輸出の継続が見込まれることにより、スロベニア経済が回復するという、フィッチの期待を反映したものだ。

●10月の貿易額はこの10年で最多に【10日】

スロベニアの10月の貿易は、輸出額が36億ユーロ、輸入額が40億ユーロで、いずれもこの10年間で最多となった。7か月連続で4億ユーロ程度の貿易赤字となっている。前年同月比では、輸出が14.2増、輸入が35.7%増となっている。

【企業、産業の動向】

●ルカ・コペルの新CEOにナパスト氏が就任【3日】

ルカ・コペルの監査役会は、ナパスト氏を5年の任期で国有港湾運営会社ルカ・コペルの社長に任命した。ナパスト氏はガス配給会社ゲオプリン社(Geoplin)の取締役会のトップを務めていた。

●スロベニア、グーグルとの協力協定に署名【10日】

スロベニア政府代表は、Googleの代表と会談し、デジタルトランスフォーメーションにおけるスロベニアのEU議長国としての成果について話し合い、Googleがスロベニアのデジタルトランスフォーメーションを支援するために、今後2年間で250万ユーロを投資するという協力協定に署名した。アンドリヤッチ・デジタル・トランスフォーメーション大臣は、「今回の投資は、我々の歴史の中で最大のものであり、スロベニアのデジタル・ブレークスルーに大きく貢献するだろう」と述べた。

●トゥルボヴリエ・フラストウニク炭鉱の閉鎖の延期【15日】

国民議会が石炭の廃止及びザサウイエ地方の再編に関する2000年の法律の変更を承認したため、トゥルボヴリエ・フラストウニク炭鉱の閉鎖期限が2023年末まで更に延期された。同炭鉱は2014年以来操業

しておらず、追加工事の費用は1,170万ユーロと見積もられており、そのうち890万ユーロは国家予算から支出される。炭鉱閉鎖にはこれまで約2.5億ユーロが費やされている。

●安川電機のロボット増産【19日】

日本の産業用ロボット生産者である安川電機のコチエウエ工場は、コロナの影響で昨年の収益が大幅に減少したが、本年は生産と売上を伸ばしている。2021年の売上高が3,200万ユーロに達すると予想されており、これは昨年に比べて140%増の数字となる。同社は本年、3,400台のロボットと2,100台のコントローラーを生産・販売する見込み。

●クラス地方の風力発電所建設案に対する地元の反対【21日】

スロベニア南西部の象徴的な地域であるクラス地方に、既に稼働している1基の風力発電所の隣に最大30基の風力発電所を建設する計画は、地元の反対に遭い、関係する2つの自治体が拒否権を発動する見込み。20日に地元住民への説明が行われたが、セジャナ市長は「自治体はまだ意見を出していないが、地域の住民の意思に必ず従うだろう」と述べた。

●プライベートファンドによるメルクール社の買収【24日】

スロベニア最大のプライベートファンドであるAlfiが、米国のHPS Investment PartnersからMerkur Trgovina社(DIY等の小売業)を買収する5,000万ユーロの契約を締結したとフィナンツェ紙が報じた。同社の小売事業は、市場規制当局の認可を経て、来年Alfiに移管される予定。

●スロベニア・中国合併事業の無期延期【27日】

スロベニア北部のメジツァ(オーストリアとの国境)に位置する起動用及び産業バッテリー製造メーカーTAB社は、中国のパートナー、Haidi エネルギーテクノロジーグループ(海帝新能源)とともに計画していたリチウムイオンバッテリー工場の建設計画を、グローバルマーケットの不確実性とサプライチェーンの障壁のため無期延期した旨発表した。同計画はスロベニア政府の補助金も受けるはずであったが、同社は政府補助金付与のための契約に署名しないと述べた。アウプリフTAB社長は、本件計画を完全に放棄したわけではなく、実行可能になる時まで計画を延期しただけであると強調した。

本件合併事業は、5千万ユーロ規模の工場建設計画のために、980万ユーロの政府補助金を受け取る見込みであった。12月はじめに政府が補助金を承認し、その際、アウプリフ社長は計画の大きな進展であるとして右決定を歓迎するとともに、新工場での製造

は2023年の予定だが、新型コロナウイルスの影響で計画進行が遅延していると述べていた。結局計画は止まってしまった。工場はプレヴァリエに2022年中に建設される予定であった。

新型コロナウイルス関連情報

●12月31日時点におけるスロベニア国内の新型コロナウイルスの感染状況【31日】

12月31日時点において、スロベニア国内で新型コロナウイルスへの感染が確認されている人数は累計465,709名で、死者は計5,589名となっている。31日時点での地域別の累計感染者は以下となっている。

地域	感染者数
スロベニア中心部	117,030
ドレンスカ・ベラクライナ地方	36,772
サヴィンスカ地方	57,365
ポドラウスカ地方	72,089
ゴレンスカ地方	46,439
ポムルスカ地方	26,088
オバルノ・クラシュカ地方	24,056
ゴリシュカ地方	24,895
コロシュカ地方	15,399
プリモルスコ・ノトランスカ地方	11,710
ポサウスカ地方	18,502
ザサウスカ地方	12,363

●ワクチン接種関連犯罪【22日】

警察はゴレンスカ地方とリュブリャナ地域に住む5名の男性をワクチン接種詐欺の疑いで刑事告訴した。5名のうち1名が他の4名分のワクチン接種を受け、4名に接種証明書を渡していたもの。自分の名前で受けた2回と合わせて、7回の接種を受けており、8回目を受けようとしたところで逮捕された。容疑者5名はいずれもスロベニア国籍。

社会・文化・スポーツ

●クライミング女子、東京五輪大会までのドキュメンタリー映画【8日】

1月16日公開予定の、東京五輪大会金メダリストである、スロベニアのスポーツクライミングスター、ヤニャ・ガルンブレッド選手(22歳)と、他の3人のクライマー、英国のショーナ・コクシー選手(28歳、東京五輪後にコンペティションクライミングからは引退)、米国のブルック・ラバトウ選手(20歳)、日本の東京五輪銀メダリスト野中生萌選手(24歳)をフィーチャーした、ドキュメンタリー映画、「The Wall-Climb for Gold」が12月8日、スロベニアで事前上映された。このドキュメンタリーでは、大会準備期間から選手等を追い、若い女性選手等の精神的、肉体的な葛藤を描き、オリンピック選手であることが何を意味するのか、そして最終的には人間であることが何を意味するのかについての刺激的な洞察を提供する作品となっている。本ドキュメンタリーオフィシャルHP：<https://thewallthefilm.com/>

●コロシュカのボルカバンドがギネスブックに登録【10日】

コロシュカ地方北部のŠtirje Kovači(「4人の鍛冶屋」の意)と呼ばれるスロベニアのフォークミュージックアンサンブルが、世界で最も長く活動しているボルカ音楽バンドとしてギネスブックに登録された。アンサンブルは70年近く音楽を作り続けており、1年半かけて、ギネス登録に関しての手続きを行い、ついにギネスの偉業を証明する証明書を受け取った。バンドは1954年に製鉄会社で働いていた4人の少年によって結成された。

●トップサイエンス賞が女性研究者に贈られた【10日】

科学と研究における生涯にわたる功績に対するゾイス賞が、統計学者のアヌシュカ・フェリゴイ氏とナノテクノロジー研究者のジュリアナ・クリスティ氏に授与された。リュブリャナ大学社会科学部の研究者兼講師であるフェリゴイ氏は統計学の研究で表彰され、クリスティ氏はリュブリャナ大学薬学部で製薬ナノテクノロジーの主要な研究者および科学者として活躍している。

●東京五輪出場選手ら、2021年のアスリート・オブ・ザ・イヤーに【14日】

スポーツクライマーのヤニャ・ガンブレッド選手、サイクリストのタディ・ポガチャル選手、そしてスロベニア男子バスケットボールチームらが、2021年のアスリート・オブ・ザ・イヤーとして選出された。女性アスリートとして最も多くポイントを獲得したのは、2018年、2

019年に続いて3回目の受章となる、東京五輪金メダリストのガンブレッド選手で、柔道のティナ・トルステニャク選手、スキージャンプのニカ・クリジュナル選手がそれに続いた。男性アスリートとしては、今年2年連続のツール・ド・フランス優勝を果たし、東京五輪のロードレースで銅メダルを獲得したポガチャル選手がポイントトップで、同じく自転車のプリモジュ・ログリッチ選手およびバスケットボールのルカ・ドンチッチ選手が続く形となり、ドンチッチ選手率いるバスケットボールナショナルチームもアスリート・オブ・ザ・イヤーに輝いた。

●ドンチッチ選手、小児病院にプレゼントを贈る【21日】

NBAのダラスマーベリックス所属のルカ・ドンチッチ選手は、リュブリャナの小児病院に入院している200人の子どもたちに宛て、ビデオメッセージとサイン入りの写真を添えて、おもちゃなどのクリスマスプレゼントを贈った。ドンチッチ選手は、赤ちゃん用のぬいぐるみから幼児用の木のおもちゃ、ドールハウス、レゴブロック、おもちゃのヘリコプター、車、トラックまで、何百ものおもちゃを寄付した。

●マリボルに自転車シェアリングサービスが導入【23日】

スロベニアで2番目に大きな都市マリボルに今春、リュブリャナと同様の自転車シェアリングシステムが導入される。最初のフェーズでは、20のドッキングステーションの設置(自転車として200台分)が計画されており、後に追加される予定。

●ポガチャル選手、ヨーロッパで6番目に優れたアスリートに選ばれる【26日】

ツール・ド・フランスの優勝者であるポガチャル選手が、欧州通信社が選ぶヨーロッパのベストアスリートのランキングで6位にランクインした。さらに3人のスロベニア人、NBAのスターであるドンチッチ選手が53位、オリンピック・クライミングチャンピオンのガルンブレッド選手が58位、もう1人の自転車選手でありラ・ヴェルタの優勝者であるログリッチが64位にランクインした。

日本産食材サポーター店認定事業：認定証授与式

松島大使は12月3日及び7日、「日本産食材サポーター店認定事業」の認定証授与式を行いました。同事業は、日本国外にある、日本産の食材や酒類を使用／販売しているレストラン／小売店を認定するもので、良質で安全な、日本の食材とお酒等を世界の人々に伝えることを目的としています。今回、スロベニアでは初めて、マキシ・グルメ・マーケット(Maxi Gourmet Market)、スヴィルナ・ポット(Svilna Pot)及びチャ(Cha)の3店が認定されました。

マキシ・グルメ・マーケットはリュブリャナ市内中心部に位置する、スーパーマーケットのメルカトル・グループの旗艦店で、世界各国の食材、高級食材等が販売されています。こちらの店では、日本産健康食品(味噌、海藻、葛等)、日本産ウイスキー他、欧州で生産された日本食材も多く扱っています。

<https://www.maxi.si/sl/maxi-gourmet/maxi-gourmet-market/>

スヴィルナ・ポットはリュブリャナ市内中心部、BTCショッピングセンター、オンラインショップの3店舗を構えるアジア食材店です。日本産のお菓子、味噌、醤油、ソース類、わさびチューブ他、欧州産の日本ビールや食材等も多数販売しています。オンラインでは食材を使ったレシピも紹介されています。

<https://www.svilnapot.si/>

チャはリュブリャナ市旧市街にある茶専門店で、日本産の煎茶、玉露、抹茶(ほとんどがオーガニックとのこと)に加え、様々な茶器等も販売しています。喫茶も併設しており、抹茶チョコ、抹茶ティラミス等も人気です。オンラインショップも充実しています。

<https://www.cha.si/>

本件事業について、詳しくはこちらをご覧ください。<https://www.jetro.go.jp/agriportal/supporter/>



マキシ・グルメ・マーケット
(12月7日)



スヴィルナ・ポット(12月3日)



チャ(12月7日)

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当て、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_si/Zivljenje_na_Japonskem.html

【領事班からのお知らせ】

● 本年4月1日より、有効期間10年の旅券の発給申請ができる年齢が、これまでの20歳以上から18歳以上に引き下げられます。また、旅券の発給申請に当たり親権者の同意が不要となる年齢も20歳から18歳に引き下げられます。

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。(※インターネットで提出をされると、変更届・帰国届けもオンラインで手続きできるため、たいへん便利です。)

また、スロベニア国内での引っ越し、第三国へ転出した場合や、日本に帰国した場合には、在留届の変更届、帰国／転出届を必ずご提出ください。

【外務省オンライン在留届】: <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

●新型コロナウイルス: 引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。当館HPでは、新型コロナウイルスに関するスロベニアの国内及び出入国規制などについてまとめたものを公開していますのでそちらもご覧ください。なお、規制は突然変更となる場合がありますので、最新情報についてはスロベニア当局にご確認いただくようお願いいたします。

【当館まとめページ】https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00027.html

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することが出来ます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～（首相官邸）

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en.html>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらをご確認ください。

●政府（英語）：<https://twitter.com/govslovenia>

●政府（スロベニア語）：<https://twitter.com/vladars>
（英語版と若干内容が異なります。）

●外務省：<https://twitter.com/mzzrs>
（主にスロベニア語）

●保健省：<https://twitter.com/minzdravje>
（主にスロベニア語）

【広報文化班からのお知らせ】

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>